記を捨てるが、ラテン語としてもイベリア半島における言語慣習からもこのvは唇歯音でないという理由で、アビセンナを用いたい。

カーヌーンの日本語訳名を、訳者は前嶋信次先生と同じく『医学規典』としている。規典という言葉は耳慣れないが、一六世紀に復刻されたアラビア語原典の書名を見ると、Kutub al-Qânûn fî al-Tibb（発音でなく文字の通りに表記、意味は「医学における規範の書物」）となっており、『医学規典』という訳は、学問的にはもっとも正確であろう。

私はこの書から教えられることばかりで批評する資格はないが、ただ一つ、『医学の歌』のヘブライ語訳者はMose Ibn Jibbonとなっているが、有名なヘブライ語訳者一家の三代目Moses ben Samuel ibn Tibbonであろう。もちろん単なる誤植かも知れない。

（泉　彪之助）

〔草風館：東京都千代田区神田神保町三―一〇、電話〇三―三二六二―一六〇一、平成十年十月、四六判、二八四頁、本体四、八〇〇円〕

リチャード・ゴードン著

『歴史は患者でつくられる』

本書を開くといきなり、「ジョージ・ワシントンは厄介な歯に悩まされていた」という一行に出会う。あのアメリカ初代大統領が若いころから歯が抜け落ち、当時の不便な義歯にさんざん悩み抜いた話がつづられている。

ついで、英雄ナポレオンのカルテが出ている。アメーバ性膿瘍・砒素中毒・膀胱結石・胃癌・癲癇・痔・性機能不全症・マラリア・躁病・梅毒・結核静脈瘤などなど、その多彩ぶりに一驚させられる。そして、現代史を左右した政治家ヒトラー、スターリン、チャーチル、ルーズヴェルトたちの隠された病歴が語られ、世界の運命がそのためにいかに大きくゆがめられたかという戦慄すべき内幕が生々しく私たちの目の前につきつけられる。

著者は麻酔科を専門とする医師であったが、のちに文筆家として立ち、多くの著作を執筆し、映画化された作品もある。それだけに医学的には正確で、文章は躍動的である。

政治家、国王、女王の病歴について、文筆家たちとして、バイロン、ディケンズ、ショーなどが取り上げられているが、イギリス人にかたより、日本人にはなじみの薄い人物が多い。その点、芸術家としてあげられている女優サラ・ベルナール、音楽家パガニーニ、画家ゴッホの頁は読みごたえがある。

美貌と美声の女優サラ・ベルナールは壊疽のため役者の生命ともいうべき脚を切断する。その手術現場の模様が臨場感をもって再現されている。サラは義足で舞台に立ったが、その後腹部手術を行い、さらに結石摘出の術後に尿毒症にかかって亡くなる。病気は人を選ばないのである。

画家ゴッホの精神病についてはよく知られているが、ここではゴッホとガシュ医師との関係をくわしくたどり、彼の最

後となったピストル自殺の前後を生き生きと語っていく。

ゴッホのカルテとして中毒症・躁鬱病・ポルフィリン症・癲癇・梅毒・分裂病にわけて論じられている。そして、著者は「この天才芸術家に捧げることができる最良の診断は、彼がヴァン・ゴッホ病にかかっていたということである」と結んでいる。まさにゴッホはゴッホ自身を病んでいたという、この指摘はきわめて示唆的である。

ついで、看護婦の神様として崇敬されるナイチンゲール、彼女はヒステリーであったため、九十歳の高齢で亡くなるまで各界の人びとを悩ませたという。

そのヒステリーの研究で知られる精神分析学の創始者フロイトがヘビーな葉巻喫煙者で、そのため口蓋癌にかかり、三十一回もの手術のすえに死んだ。そして、最後に作中の人びととして、マクベス、ほら吹き男爵、シャーロック・ホームズがあげられている。ホームズの一章はワトソン先生とフロイト先生との往復書簡という形式になっていて、ホームズ・ファンにはとりわけ興味深いであろう。

姉妹編として同じ著書と訳者による『歴史は病気でつくられる』が邦訳出版されている。あわせ読まれることをおすすめしたい。

一読思うことは、人間の歴史をつき動かしているのは、人間の考え出した主義でも思想でもなく、むしろ人間の病気や生理というものかもしれない――、という思いである。

（立川　昭二）

〔時空出版：東京都文京区小石川四―一八―三、電話〇三―三八一二―五三一三、平成十一年一月、四六判、三九四頁、本体二、四〇〇円〕

吉元昭治著

『不老長寿への旅　ニッポン神仙伝』

不老長寿とは道教が最終目標に掲げているものであるが、同時にそれは人類の長年の夢でもある。現代医学はその夢に向かって突き進んできたが、最近では平均寿命の更新は必ずしも歓迎されないものとなっている。ねたきり・痴呆への恐れや不安が人々の心を占領しつつあるからである。

本書は、夢を追いかけつづけた道教が日本の古代社会にいかなる影響を与えたのか。またその影響が現代の日本社会における風習や民間信仰、祭祀といったものの中にどの程度の痕跡を残しているのか。そのあたりの事情を平易にまとめたものである。

第一部「仙人物語」は「不老不死のいきつくところは仙人」「『不老長寿』の歴史」「仙人とは」「修験道の開祖『役行者』」「仏教説話の中の仙人たち」「物を飛ばす仙人たち」「江戸の仙人」「滑稽な仙人たち」「女の仙人」「『本朝神仙伝』と『元亨釈書』に見る仙人」「まとめ」の全十一章から成る。ここでは記紀・仏教説話集・神仙伝を主材料に、日本の仙人像を描出し、中国のそれとの違いを明らかにする。また道教が日本社会に与えた影響とその足跡をたどる旅を展開させ、道教と